

平成 2 8 年 6 月 1 0 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23530411

研究課題名(和文) 近現代中国における農村経済発展モデルの構築と零細農化に関する実証研究

研究課題名(英文) The positive research of building up a new model on the rural economy development in modern China.

研究代表者

弁納 オー (BENNOU, SAIICHI)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：90272939

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近現代中国農村経済について、主に華北農村調査資料を利用して実証分析を行い、新たな発展史モデルを構築することを目指した。当該研究期間を通じて、この目的はほぼ達成された。すなわち、近現代中国農村は、経済が発展するのに伴って、零細農化・脱農化が進行し、最終段階では、農業・農民・農村が消滅した。そのことを示す事例として、北京市近郊農村、河北省石家荘地区農村、河北省東部地区農村のいくつかの農村を取り上げた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed at building up a new model of the rural economy development in modern China by my positive analysis. Through this five years, this aim almost was achieved. With the advance of rural economy in modern China, agriculture, peasants, and rural community disappeared in the last stage of the economical development.

研究分野：近現代中国農村経済史

キーワード：経済史

1. 研究開始当初の背景

(1)日本では、近現代中国農村経済や農業に対する関心が非常に低下しており、研究が停滞・低迷していた。それは、研究の視点と手法に主要な原因があったと思われる。

(2)近現代中国における経済史研究が各産業史研究の集積として捉えられていたことから、本研究で扱った分野は農業史とされてきた。だが、農業経済の発展と農村経済の発展とは必ずしも一致しない。近代以降の農村では、当初は農業が主要な産業だったものの、徐々に農業以外の産業分野（商業、運送業、手工業、工業など）の占める割合が拡大していき、むしろ農業の占める割合は縮小していった。

(3)近現代中国において、脱農化（農村内における農業労働従事者数の減少と各戸の家計中に占める農業収入割合の低下）・都市化（公務員・賃金労働者・商店員などとして都市近郊農村から市街地への通勤者数の増加）が進行していた都市近郊農村については、そのような農村はもはや農村と見なすべきではないという捉え方から、農村経済史を分析・考察する対象からは意図的に除外されてきた。

2. 研究の目的

(1)近現代中国農村を経済的側面から捉えた時、農業を主要な産業とする農村経済と商業・工業・運送業・サービス業などを主要な産業とする都市経済とに二分する見方から、農村経済を農業ばかりでなく、養鶏業・商業・運輸業・手工業・工業などをも含む多様なものと捉え直すことによって、その発展について再考する。

(2)近現代中国農村経済における発展方向とその意味について考察する。すなわち、部分的にはあれ、資本主義的農業経営（富農経営）が展開した地域があったが、そのような地域はいかなる発展段階にある地域だったのか、また、相対的に不利な産業である農業が近代化の進展に伴って衰退して行く傾向が見られるが、それは農業経済史の展開においていかなる意味を有していたのかを考察する。

(3)中国農村調査資料に基づく実証研究によって、長期的かつ最終的には従来のイメージとは異なる新たな近現代中国農村経済発展史像を構築する。

3. 研究の方法

(1)国内外の研究機関や資料館などにおいて近現代中国農村経済に関する文献資料（とりわけ、戦前、国策会社の満鉄（南満州鉄道株式会社）調査部などによって実施された数多くの農村社会実態調査報告書類）調査を網羅的かつ徹底的に行った。すなわち、国内では、東洋文庫、早稲田大学中央図書館、東京大学経済学部図書室・農学生命科学図書館（旧農学部図書館）・東洋文化研究所資料室、

九州大学農学部図書館などで、また、中国では、上海図書館、無錫市図書館、南京大学図書館、北京図書館、中国社会科学院経済研究所資料室、中国農業大学西区校舎図書館、北京師範大学図書館などである。

(2)中国においては、文献資料調査を行うと同時に、華北農村における組織的な聞き取り調査と並行して、江蘇省無錫市の2つの農村（無錫市街地にやや近い栄巷鎮小丁巷と無錫市街地からやや離れた胡 dai 鎮馬鞍村）において単独で簡単な聞き取り調査を行った。なお、小丁巷は日中戦争中に満鉄によって調査が実施された村であり（上海事務所調査室編『江蘇省無錫県農村実態調査報告書』満鉄調査研究資料第三十七編・上海満鉄調査資料第五十編、南満州鉄道株式会社調査部、1941年）、馬鞍村は中国科学院経済研究所が1929年に調査を実施してから、その後も2004年まで数回にわたって調査が実施されてきた村である（呉文勉・武力『馬鞍村の百年滄桑 - 中国村庄經濟与社会変遷研究』中国经济出版社、2006年）。

(3)主に日中戦争時期に調査が実施された数多くの農村をその経済発展の程度・水準から時系列上に置換するという分析手法を用いる。

4. 研究成果

(1)近現代中国農村においても、とりわけ都市近郊農村においては、脱農化の進行が顕著に見られた。それは、近代以降も様々な手工業が存続あるいは新たに勃興したこと、近代工業化が進行するのに伴って農村部から都市部へ労働力が移動したこと、農地が幹線道路の建設や工場用地へ転用されたこと、工業原料となる商品作物（棉花など）の生産が拡大したこと、穀物までもが販売目的で生産されるようになっていたこと、大都市近郊農村がベッドタウン化した（都市近郊農村から市街地へ通勤したり、また、農村部から都市部で働くためにやって来た人々が市街地よりも家賃が安い都市近郊農村の空き部屋を間借りしたりした）ことなどによってもたらされたことを明らかにした。

(2)近現代中国農村における零細農化については、零細自作農化型と零細小作農化型に大別することができ、脱農化（都市化）が進行した農村ほど、零細自作農化が進行する傾向が見られた。また、市街地に近接する農村ほど、農業外就労の機会が拡大することによって零細農化が進行するという傾向が見られることを確認した。よって、近現代中国農村における零細農化の進行は、必ずしも農家の貧困化を意味するものではないことが明らかになった。なお、零細農化がかなり進行していた農村における零細農家の多くは、自家消費用の食糧穀物を栽培しており、また、家計内の農業外就労による収入の割合が多くなっていたことから、脱農化の程度も高まっていた。

(3) 近現代中国農村経済における発展の最終段階は農業・農民・農村の消滅であるという見通しを主に華北農村について実証することができた。すなわち、零細農化・脱農化・都市化が最も進行していた北京市近郊農村（河北省昌平県[現在、北京市昌平区]水屯村、河北省大興県[現在、北京市大興区]前高米店村、河北省通県[現在、北京市通州区]小街村、河北省宛平県[現在、北京市海淀区の一部]西苑掛甲屯）・河北省石家荘地区農村（獲鹿県[現在、石家荘市鹿泉区]東焦村・馬村、正定県[石家荘市正定県]柳辛荘・後太保、晋県[現在、石家荘市晋州市]秘家荘）・河北省東部の冀東地区農村（平谷県[現在、北京市平谷区]小辛寨、遵化県[現在、唐山市遵化市]盧家寨、撫寧県[現在、秦皇島市撫寧区]王各荘・郝各荘、灤県[現在、唐山市灤県]雷家荘、密雲県[現在、北京市密雲県]小營村、昌黎県[現在、秦皇島市昌黎県]中両山、玉田県[現在、唐山市玉田県]東陳荘・西陳荘・龍窩・小王荘・小江荘・孟辛荘・芝蔴堦、豊潤県[現在、唐山市豊潤区]東鴻鴨泊・米廠村・蕉家荘）を取り上げた。

(4) 都市経済と農村経済の発展は対立しているのではなく、むしろ連続している。すなわち、近現代中国における都市経済の発展の基礎は農村経済の発展を反映しており、両者は表裏一体の関係にある。よって、都市と農村を二重経済構造的な関係にあると見なす理解の仕方には同意できないし、少なくとも近現代中国農村には当てはまらない。

(5) 上海市嘉定区馬陸鎮石崗村と無錫市の農村（小丁巷と馬鞍村）を訪問した際に、わずかに残っていた農地（畑）が完全になくなっていき、その後、農家の建物が村全体で取り壊されて高層マンションが建設されていたのを目の当たりにすることができた。すなわち、これらの農村は農業・農民・農村が消滅するという農村経済の発展の最終段階に到達していたことを確認することができた。なお、上海市の石崗村についても、日中戦争中に満鉄が調査を実施している（満鉄上海事務所調査室『上海特別市嘉定区農村実態調査報告書』上海満鉄調査資料第三十三編、1939年）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 21 件）

弁納才一、中華民国前期冀東地区豊潤県 3ヶ村における農村経済、金沢大学経済論集、査読無し、第 36 巻第 2 号、2016、45 - 74

弁納才一、華東農村訪問調査報告(11) - 2015 年 5 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 36 巻第 1 号、2015、221 - 245

弁納才一、華東農村訪問調査報告(10) -

2014 年 12 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 36 巻第 1 号、2015、171 - 192

弁納才一、有関近現代中国農村経済発展の新型模式、“華北城郷与近代区域社会”暨第六届中国近代社会史国際學術研討会論文集（上冊）、中国社会科学院近代史研究所・河北大学、査読無し、2015、45 - 47

弁納才一、中華民国前期冀東地区玉田県 7ヶ村における農村経済、金沢大学経済論集、査読無し、第 35 巻第 2 号、2015、5 - 35

弁納才一、華東農村訪問調査報告(9) - 2014 年 3 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 35 巻第 1 号、2015、169 - 188

弁納才一、近現代北京市近郊農村における経済発展と都市化、経済史研究、大阪経済大学日本経済史研究所、査読有り、第 18 号、2015、63 - 90

弁納才一、日中戦争期河北省石家庄地区農村における経済発展、史滴、早稲田大学東洋史懇話会、査読有り、第 36 号、188 - 212

弁納才一、中華民国新民会による刊行物と華北農村調査の特質について、中国占領地の社会調査 - 農村調査 - 、近現代資料刊行会、第 2 期第 2 回配本、査読無し、2014、33 - 56

弁納才一、中華民国前期冀東地区 6 県 7ヶ村における農村経済、金沢大学経済論集、査読無し、第 34 巻第 2 号、2014、53 - 87

弁納才一、華東農村訪問調査報告(8) - 2013 年 9 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 34 巻第 2 号、2014、401 - 420

弁納才一、中華民国期冀東地区における農村経済の概況、金沢大学経済論集、査読無し、第 34 巻第 1 号、2013、59 - 86

弁納才一、農業生産から見た華北農村経済の特質、華北の発見、東洋文庫、査読無し、2013、227 - 249

弁納才一、民国期中国における農産物生産の概要、金沢大学経済論集、査読無し、第 33 巻第 2 号、2013、75 - 101

弁納才一、近現代中国農村経済史分析の新たな枠組みと発展モデルの提示、金沢大学経済論集、査読無し、第 33 巻第 2 号、2013、103 - 120

弁納才一、華東農村訪問調査報告(7) - 2012 年 3 月、江蘇省の農村 - 、北陸史学、査読有り、第 60 号、2013、1 - 21

弁納才一、農村経済史、中国経済史入門、査読無し、2012、97 - 110

弁納才一、華東農村訪問調査報告(6) - 2011 年 11 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 32 巻第 2 号、2012、195 - 209

- 弁納才一、華北綜合調査研究所の刊行物について、近代中国研究彙報、東洋文庫近代中国研究班、査読無し、第 34 号、2012、103 - 132
- 弁納才一、華東農村訪問調査報告(5) - 2010 年 12 月、江蘇省の農村 - 、金沢大学経済論集、査読無し、第 32 巻第 1 号、2011、177 - 189
- 21 弁納才一、民国期中国の農村経済史、近きに在りて、査読無し、第 59 号、2011、67 - 76

〔学会発表〕(計 1 件)

弁納才一、有関近現代中国農村経済発展の新型模式、“華北城郷与近代区域社会” 学術研討会・第六届中国近代社会史国際学術研討会、2015.9.19、中国河北省保定市

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

弁納 才一 (BENNOU, Saiichi)
金沢大学人間社会研究域経済学経営学系・教授
研究者番号：90272939

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：